

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100126		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホーム みどりのき		
所在地	〒801-0883 福岡県北九州市門司区大久保1丁目9-2 093-321-8800		
自己評価作成日	平成24年08月16日	評価結果確定日	平成24年10月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じウチヤマググループである株式会社ボナーの協力により、外食レクリエーションやケータリングが行える。民生委員からの情報により、地域行事に参加している。(ふれあい交流昼食会、盆踊り、朝市、シルバー文化祭など)また地域の港が丘小学校ウェルクラブ児童が夏休みなどを利用して訪問して下さる。ハード面は、建物を囲むようにベランダがあり、入居者様が自由に行き来している。ベランダから陽が射しこみ、昼間でも非常に明るく、気持ちが良い。施設で提供する食事に関しては職員が献立考え、バランスの良い食事を提供している。隣接する介護付き有料老人ホーム さわやか和布刈館、さわやか和布刈式番館と運動会や夏祭り、もちつきなど、同グループで協力し合い、行事を行っている。介護サービス相談員の受け入れを行い、入居者様の相談に乗ることにより、ストレスの軽減を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関門海峡を眼下に見下ろし、自然環境に恵まれた丘の上に、デイサービス、有料老人ホーム併設のグループホーム「みどりのき」がある。「家庭的で安心した生活、個性、能力の発揮」というホーム独自の理念を作り、管理者は、利用者が、安心して暮らせるグループホームを目指し、自由でのびのび生活出来る介護サービスの提供に努めている。地域では、運営推進会議委員の協力を得て、利用者職員が行事や食事に参加し、併設事業所と合同の催し物に、家族や地域住民が参加し、活発な地域交流が始まっている。また、利用者の身体機能維持を目指し、生活リハビリや体操を取り入れ、自立支援に向けて取り組み、家族からの信頼は深いものがある。今後は、地域福祉の拠点づくりを目指し、職員一人ひとりが目標を掲げ、取り組み始めた「みどりのき」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年09月25日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で安心した生活、個性、能力の発揮を事業所の理念としている。法人としての理念は慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義である	ホーム独自の理念を「家庭的で安心した生活、個性、能力の発揮」とし、管理者は利用者の目線で介護サービスを提供できるように、常に職員に話し、努力を続けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターで行われる、ふれあい昼食会、朝市、文化祭、毎年盆に寺で行われる盆踊りに参加している。小学校の子どもたちの訪問もある。	運営推進会議のメンバーからの情報提供により、地域のふれあい昼食会、朝市、シルバー文化祭に利用者の作品を出展する等交流の場が広がっている。また、小学生のウエルクラブによる傾聴ボランティアの訪問は利用者の楽しみのひと時である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて生かされてはいない		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告、困難事例の発表、それに対する意見交換、地域行事への参加を主に話し合っている。地域の代表の方に施設のイベントに参加して頂けるように促している	会議は、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加のもと、2ヶ月毎に定期的開催している。ホームから現状報告や行事予定、事故報告を行い、参加者からは、質問、情報提供、要望等出され充実した会議である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所がたくさんある為、運営について分からないこと、質問などを法人が集約し、法人から介護保険課に聞き、全施設に周知している。担当の地域包括支援センターに対しては常に情報のやり取りを行っている	運営推進会議に、包括支援センター職員が参加し、ホームの実情を理解してもらっている。また、介護相談員の派遣を受け入れる等、少しずつ行政との連携も始めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去に離脱事故があり、玄関の施錠は24時間行っている。 身体拘束を行った事例はなし 半年に1回勉強会を行っている	身体拘束廃止マニュアルを用意し、勉強会を年2回開催し研修レポートを課す等して周知徹底し、職員一人ひとりが身体拘束をしない介護サービスを目指している。また、玄関のドアは安全のため24時間鍵をかけている。	玄関をクローズする事で、利用者の不穏な行動を増幅させる事もあるので、安全第一ではあるが、鍵をかけない工夫への取り組みを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を半年に1度行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は運営推進会議やグループホーム協議会の研修で学んでいる。職員が学ぶ機会は少ない	現在、制度利用の該当者が1名いて、管理者は、内外の研修会で制度を理解し、関係機関と連携を取れる体制である。利用者や家族が、制度を必要とする時、職員全員が説明出来るようにするための検討が始まっている。	管理者は理解しているが、制度に関して職員全員の周知がなされておらず、内部研修で理解を深め、誰でも説明出来る体制の強化が期待される。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今まで契約に関しては疑義や質問等はない。時間をかけて説明を行っている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し立ての窓口を説明している。また、苦情改善ボードを設置し、苦情があった場合にはその内容と改善策を掲示している	家族の面会や行事参加時に、意見や要望を聴く努力をしているが、面会の少ない家族に対してもサービス内容や利用者の暮らしぶりを正確に伝える方法を現在検討中である。	利用者や家族の意見や要望の窓口としての意見箱の設置と、家族の心配事や悩み等を一緒に話し合う機会(家族交流会等)を作る事で、家族同士の交流やホームとの更なる信頼関係の構築を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングの場で行っている。職員の提案は出来るだけ叶えるように動いている。また、法人の幹部と事業所の職員との関係を密接にする為、本社幹部参加の会議を月1回設けている	毎月定期的に職員会議を開催している。一部の職員の強い意見が全体的な意見となりがちなので、管理者は職員間の聴き取りを行う等調整し、充実した中身のある職員会議になるよう努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内資格を作り、勉強する場を作り、手当も設けている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢制限なく雇用している。職員は希望休や有給を取れる環境である。外出レクリエーションは介護職員が企画し、入居者様に喜んで頂けるような取り組みを行っている。	職員の採用は、年齢、性別、経験、資格等の制限は設けていない。休憩時間は、食事が30分、残りの時間を30分とよう努めているが、休憩室が整備されていないので、今後の課題として取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現任者に対する研修で、高齢者虐待防止や、身体拘束の勉強会を行っている。事業所内でも8月25日に行った	管理者は、人権に関する研修を受講し、利用者の人権を守るための介護サービスについて理解している。今後は、定期的に伝達研修を実施し、職員全員で利用者の人権を守る取り組みを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度現任者を対象に研修を行っている。新人や、リーダーに対する研修もある		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が開催する研修に参加させてもらっている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時に、本人、御家族より、希望を聞く。センター方式を使用し、ご本人の困っている事、うれしいことを把握し、ケアプランに反映している		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	おおむね2週間で暫定プランから本プランに切り替える為、サービス担当者会議などで要望を聞ける機会がある		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので、他サービスは基本的に利用できない。医療との連携はホームドクターを中心として行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をする中で、家事を生活リハビリとして、調理、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の少ない家族には連絡させていただき、現状を報告するとともに、面会に来て頂けるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院やかかりつけ医に職員、又はご家族対応で行くようにしている。近隣の市民センターのイベントに参加している	利用者の行きつけの美容院やかかりつけ医に同行したり、隣接のデイサービスや有料老人ホームの知人、友人との相互訪問、また、近隣の市民センターでのイベントに参加する等、馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル、椅子の配置を考え、それぞれ気の合う方向士になるように工夫している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に退去した入居者様のもとに面会に過去行っていた。隣接する施設にも友達がいる入居者様がいらっしゃるのので、時々面会に行く		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の意向の確認に努めている	職員は、出来るだけ利用者一人ひとりに寄り添いながら会話し、意向の把握に努めている。把握の困難な利用者に対しては、過去の履歴を見直したり、家族に相談する等、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族本人に聞くようにし、把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、本人の意向の確認に努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を3カ月に1回開催し、情報交換をこまめに行っている。モニタリングは月1回行い、プランの成果を確認している	介護計画は、利用者や家族の意見を聴きながら、主治医や職員の意見を集約し、3ヶ月毎に作成している。また、管理者は、利用者の状態変化に合わせ、家族と密に連絡を取りながら、その都度、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項、ケア記録に記入している		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設に退去した入居者様のもとに面会に過去行っていた		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターで行われるイベントに参加させて頂いている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ホームドクターからの往診があり、必要時には総合病院に紹介して頂ける環境である	入居前からのかかりつけ医受診は現在1名で、他の利用者は協力医療機関による2週間毎の往診による医療受診となっている。また、緊急時には、主治医と連絡を取りながら、24時間安心して医療が受けられる体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するさわやか和布刈館の看護師に、アドバイスを受けることができる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院する前は必ずアセスメントに伺うようにしている。その情報を職員に伝え、どういう介護をしていくかを話し合っている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほとんどのご家族がまだわからないとおっしゃっている。あるご家族は、自宅に連れて帰るとおっしゃっている。	利用者の重度化した場合について、家族と話し合い、方針を共有し、主治医や職員間で確認し、重度化に向けた支援体制に向けて努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアミーティングの場で、夜間緊急対応の勉強会を行った。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大雨被害の為、過去2度隣接のさわやか和布刈館へ避難した。協力体制が築けている	年2回、防災訓練を隣接事業所と共同で実施し、非常口、避難経路、避難場所、通報装置の使い方等、職員全員が理解し、実践出来るよう訓練の中で取り組んでいる。また、非常食、懐中電灯等の備品も準備している。ホームの横が崖になっている事から、大雨についての対策は現在検討中である。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さわやか倶楽部の方針で、入居者様には「様」付けを徹底している。	利用者のプライバシーを守るためには、優しい声かけや見守り等の心遣いが必要である。一部の職員による必要以上の大きな声で利用者のプライバシーを損なう場面も見られるが、利用者と職員の信頼関係は十分にとれており、利用者一人ひとりを尊重した優しい声かけが今後の課題である。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服を選んで頂くことはできている。ご本人希望の外出は現状はご家族にお願いしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間、食事時間、起床時間を多少融通がきくように支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に洋服を持ってきていただけるようお願いしている。外出時は化粧をして出かけるようにしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付け、配膳を手伝って頂いている。調理を行える能力がある方はいらっしやるので、支援していく必要がある。	利用者の力を活かしながら、食材の買い物や片付けを一緒に行っている。利用者と職員は、同じテーブルで同じ料理を食べながら世間話をし、食後の服薬、口腔ケアに繋げている。また、法人経営の店で外食したり、ケイタリングを利用して握り寿司等の食事会を行う等食事が楽しみになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録につけている。主治医との連携、水分を多く取ってもらうよう支援している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを入居者様全員に行っている。できない方は支援する。週1回歯科医の往診があり、その方に合った治療をして頂く。職員は状況を把握し、歯科医に報告して問題がある場合には改善して頂いている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から排泄時間の把握に努め、トイレ誘導している。おむつの会社と連携し、その方にあったものを提供している	日中は全員トイレ誘導を行っている。職員は、排泄チェックシートを正確に記録し、その記録をもとに利用者の排泄パターンを把握し、早めの誘導や声かけで、トイレでの自立に向けた排泄の支援を実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ごはん、ヨーグルトはよく提供する。毎日リハビリ体操を行う。必要な方は下剤を服用している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に定めていない。基本的に月～土迄行い、日曜には希望者のみとしている	入浴は、基本的には週3回であるが、毎日入浴出来る体制を確立し、利用者の健康状態やその日の気分に合わせて、入浴が利用者にとって楽しいものになるよう、工夫しながら取り組んでいる。また、入浴を拒否される利用者には、家族から入浴の呼びかけをして頂く等の協力がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の時間を一人一人に合わせて、就寝して頂くようにしている。夜間眠れなかった入居者様には昼寝をして頂き、体調を崩さないように配慮している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームドクターにその都度報告を入れている。また、2週間に一度往診があり、現状報告を行うことで、適切な服薬管理が出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食レクリエーション以外、個別レクに関してはご家族にお願いしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に支援して頂き個別的にレクリエーションを行っている	外出は、天気の良い日や利用者の健康状態に配慮し、職員の勤務状態に合わせ、買い物、隣接事業所への訪問、ふれあい昼食会、家族との外出等、戸外に出かけ、季節を五感で感じ取れるよう支援している。先日は、下関の水族館に出かけ、利用者に喜ばれた。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は入居者様は行ってない。施設の買い物に同行して頂く時は現金を所持する		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りができるよう、本人が希望する時は支援している。 ご家族からかかってきた場合は取り次いでいる		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを入居者様に作っていただいている。こまめに室温設定をしているが、エアコンの風が当たる為、不快な思いをさせるときがある	ホームは、関門海峡が見える見晴らしの良い場所にある複合型福祉施設の一角にある。季節の花が咲く玄関から、折り紙で飾られた明るく広いリビングルームに入ると、ゆったりした広いスペースの中で、利用者が、タオルを畳んだり、計算ドリルに取り組む等、穏やかに過ごす姿が見られた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子の配置を考え、それぞれ気の合う方同士になるように工夫している		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の好きなものを持ってきていただくようにご家族に説明している	居室は、家族が利用者の使い慣れた物や馴染みの家具等を持ち込み、自宅と違和感のない生活ができるよう支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台に一人一人洗面用具を置いており、声かけで自立して歯を磨けるように工夫している 居室の扉に大きく入居者様の名前を表示している		